# 誰も知らない！ 超B級ビジネス Strange Biz

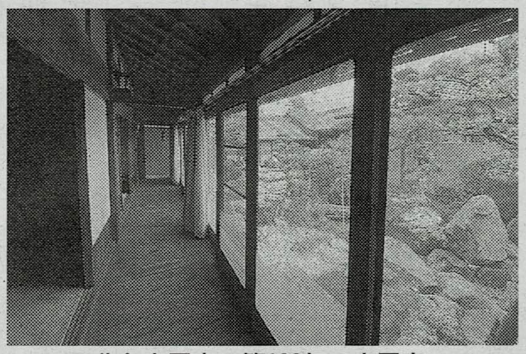
## もうひとつの古民家再生術（上）

# 困り事にビジネスの種あり

「古民家をなんとかしたい」と北名古屋市に住むAさんが相談に来られた。聞くと十数年前に両親が相次いで他界され、築100年もの古民家がそのまま空き家になっているらしい。新規事業の立ち上げを得意とする私に相談に来られたということは、ビジネスとして成立する生かし方を求められているのだと考え、早速、プランニングしてみることにした。

調べてみると全国には約156万戸の古民家がある（古民家びとレポート「総務省平成25年住宅・土地統計調査」からみる古民家の現状についてから）。

一般的な古民家の生かし方と言えば、リノベーションして新たな住人を探したり、旅館や店舗などの商業施設や観光施設として活用するのが王道だろう。しかし、その王道で生かすのであればリフォーム会社や不動産業者に相談し、入居者を募集すればいいだけだ。



北名古屋市の築100年の古民家

ありきたりだが更地にして売却してもいいわけで、何も私に相談しなくてもことは足りる。それをやらない（またはやれない）何らかの理由がAさんにはあるはずだ。

Aさんの現在の住居はその古民家の敷地内にある。なるほど、単に新しい住人が自分の敷地内に住むという環境は抵抗があるのかもしれない。その古民家は、Aさんが生まれ育ち思い出がつまった「ふるさと」でもあるので、複雑な気持ちになるのは当然だ。

**岩佐　卓**（いわさ・たかし）ゼネット代表取締役、「リフォーム事業・レンタルスペース事業・起業家支援」を得意とする新規事業立ち上げコンサルタント

ましてや更地にするなんてとんでもない。

残るは商業施設や観光施設としての生かし方だ。別事業を営むAさんは、当然、誰かに賃借することになる。そこで古民家一棟丸ごと貸してしまうのもひとつの案だが、リスク（短期間での退去など）を考えると躊躇（ちゅうちょ）するし、何と言っても、企画屋の私としては、それだけでは正直面白みに欠ける。

また、空き家はそのままにしておくと、驚くほど速く朽ちていく。早くヒトの生気を吹込まないと、結果、解体せざるを得ない状況になってしまう。ではどうやってAさんの想いをつなぎ、生気をプラスしてビジネスとして成立させるか。2020年7月、プロジェクトの名称を「古民家plus」と名付け、企画がスタートした。

（毎週月曜日に掲載）

# 花き用冷

「鮮温庫」は花き用を主

温域と呼び、この温度帯で貯蔵すると、食品の鮮度を維持したまま長期貯蔵が可能になる。

斎藤社長は「最近、食肉や魚介類のほか幅広い食品分野で長期熟成の市場が伸びている」と話し、食品業界向けの販売強

ー シルエット」の販売を開始した。目元を美しく見せたいという顧客の声を参考に製作。メイク時間の短縮やまつ毛カールの長時間持続、高い完成度を実現する。

新商品は、理想的なカールの仕上がりや持続力にこだわり、2年以上の開発期間を経て完成した。まつ毛のカールに最適な温度である65度を保つ。また、日本人の平均的なまぶたを研究し、目頭から目尻まで1回でカールできる仕組みとな

日本人のま
ビューラー

## SDGs推進へ プラットフォーム 会員12日から募集

名古屋市

名古屋市は、市内企業などを対象に「名古屋市SDGs（持続可能な推進プラットフ

盤）」を創設し、会員を募集する。同プラットフォームパートナーとして上日動火災保険、名古屋市信用保証協会と締結する。

会員は、市内企業大学などを対象に募集体を目標に募集格の有無は問わない。

会員メリットは、の専用ウェブサイト掲載されPRで員との連携・交流ートナーなどからs教育支援など。

会員申請には、への取り組みや目標などを記載を提出する。

登録申請、問い市総務局企画課2・972・2で。